

令和2年12月期第2四半期 決算説明資料

株式会社sMedio

(東証マザーズ：証券コード3913)

<https://www.smedio.co.jp/>

令和2年7月31日（金）

本資料の無断複写、無断転用はしないで下さい

本資料の要因分析は、当社が適切と考える方法で実施している点、ご理解下さい。



Copyright© sMedio, Inc. All rights reserved.



1. 連結業績概要	…P3
2. 連結決算概要 (PL)	…P4
3. 連結決算概要 (BS)	…P5
4. 形態別連結売上高推移	…P6
5. 連結営業利益・連結経常利益推移	…P7
6. 本資料の取扱いについて	…P8

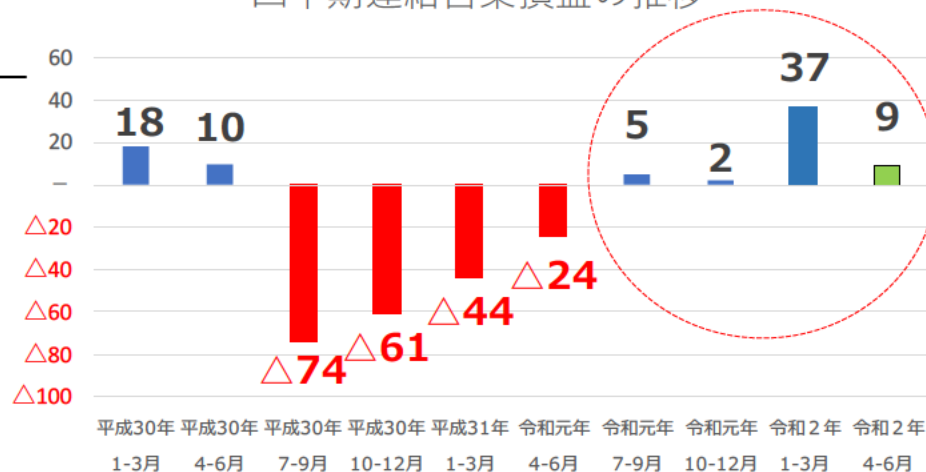
本資料中の数値は、単位未満切捨てで表記しております。
なお、端数処理の影響で、各表の項目の合計と合計欄が一致していない場合があります。

- ◆ロイヤリティ収入の底上げにより、売上高は前年同期比44百万円の増収。
⇒前期に開発に取り組んだ、4K/8Kテレビ向けのロイヤリティ収入が寄与。

- ◆当第2四半期(4-6月)は9百万円の連結営業利益を計上。

単位：百万円未満切捨て
四半期連結営業損益の推移

⇒4・四半期連続で連結営業黒字を計上。



- ◆営業黒字、最終黒字は、資金創出につながり、現預金は前期末比152百万円増加して、783百万円となった。

新型コロナウイルス感染症の影響に関する前提

新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するために導入されている世界各国での規制による影響およびそれに伴う景況感の悪化等の間接的な影響には不確実性がありますが、当社事業への関連特需等は見込まれず、第3四半期連結会計期間（7-9月）以降にも、得意先企業での開発スケジュールの後ろ倒しや予算削減による影響が若干出てくるものと考えております。開発体制に関しましては、国内（東京都、福岡県、岡山県）の一部開発拠点では、出勤と在宅勤務を組み合わせた体制での開発業務を行っており、中国・上海の開発拠点では、通常通りの業務を行っております。当社グループの開発業務は、今後、通常よりも若干のスピードダウンが発生するのは不可避ではありますが、開発業務が停止する等といった重大な事態にはならないと考えております。

2. 令和2年12月期 第2四半期 連結業績概要 (PL)

単位:百万円未満切捨て

	平成30年 1-6月期	令和元年 1-6月期	令和2年 1-6月期	前年同期比	
売上高	534	437	482	44	10.2%
売上原価	260	262	204	△58	△22.2%
売上原価率	48.7%	59.9%	42.3%	△17.6%p	
売上総利益	273	175	278	102	58.7%
販管費	244	244	231	△13	△5.5%
営業利益	29	△69	46	116	
営業利益率	5.4%	△15.9%	9.7%	+25.6%p	
営業外収益	1	1	0	△0	△50.7%
営業外費用	1	0	0	0	111.7%
経常利益	29	△68	46	115	
特別利益	—	—	—	—	
特別損失	0	—	1	1	
税金等調整前四半期純利益	29	△68	45	113	
法人税等	16	1	21	19	1073.2%
親会社株主に帰属する四半期純利益	12	△70	24	94	

(売上高) 前期に開発に取り組んだ4K/8Kテレビ向けのロイヤリティ収入が寄与し、44百万円の増加となった。

(販管費) 研究開発費が11百万円増加した以外は目立った増加がなかった一方、新型コロナウイルス感染拡大により、出張自粛等で発生経費が少なくなり、13百万円減少した。

(営業利益・経常利益) 増収と経費減少により、ともに黒字化した。

(特別損失) ブイログ製品関連のWEBサイト・アプリの除却。

3. 令和2年12月期第2四半期 連結決算概要 (BS)



単位:百万円未満切捨て

資産	平成30年 12月末	令和元年 12月末	令和2年 6月末	前期末比
現金及び預金	1,083	631	783	152
売掛金	47	48	29	△19
仕掛品	—	21	17	△4
原材料及び貯蔵品	119	374	336	△38
その他	16	24	13	△11
流動資産合計	1,266	1,101	1,179	78
有形固定資産	21	22	22	0
ソフトウェア	24	14	13	△1
のれん	85	42	29	△12
その他	1	1	1	△0
無形固定資産合計	111	58	43	△14
投資その他資産	50	40	34	△6
固定資産合計	183	120	100	△20
資産合計	1,450	1,222	1,279	57

負債・純資産	平成30年 12月末	令和元年 12月末	令和2年 6月末	前期末比
買掛金	49	20	7	△12
短期借入金	124	—	—	—
未払法人税等	6	7	17	9
未払費用	39	53	68	14
賞与引当金	2	2	10	8
工事損失引当金	—	—	—	—
その他	44	35	43	8
流動負債合計	265	118	147	29
固定負債合計	8	8	9	1
負債合計	274	126	157	30
資本金・資本剰余金	1,176	1,175	1,162	△12
利益剰余金	219	134	158	24
自己株式	△227	△219	△201	18
その他	7	5	2	△2
純資産合計	1,175	1,095	1,122	26
負債・純資産合計	1,450	1,222	1,279	57

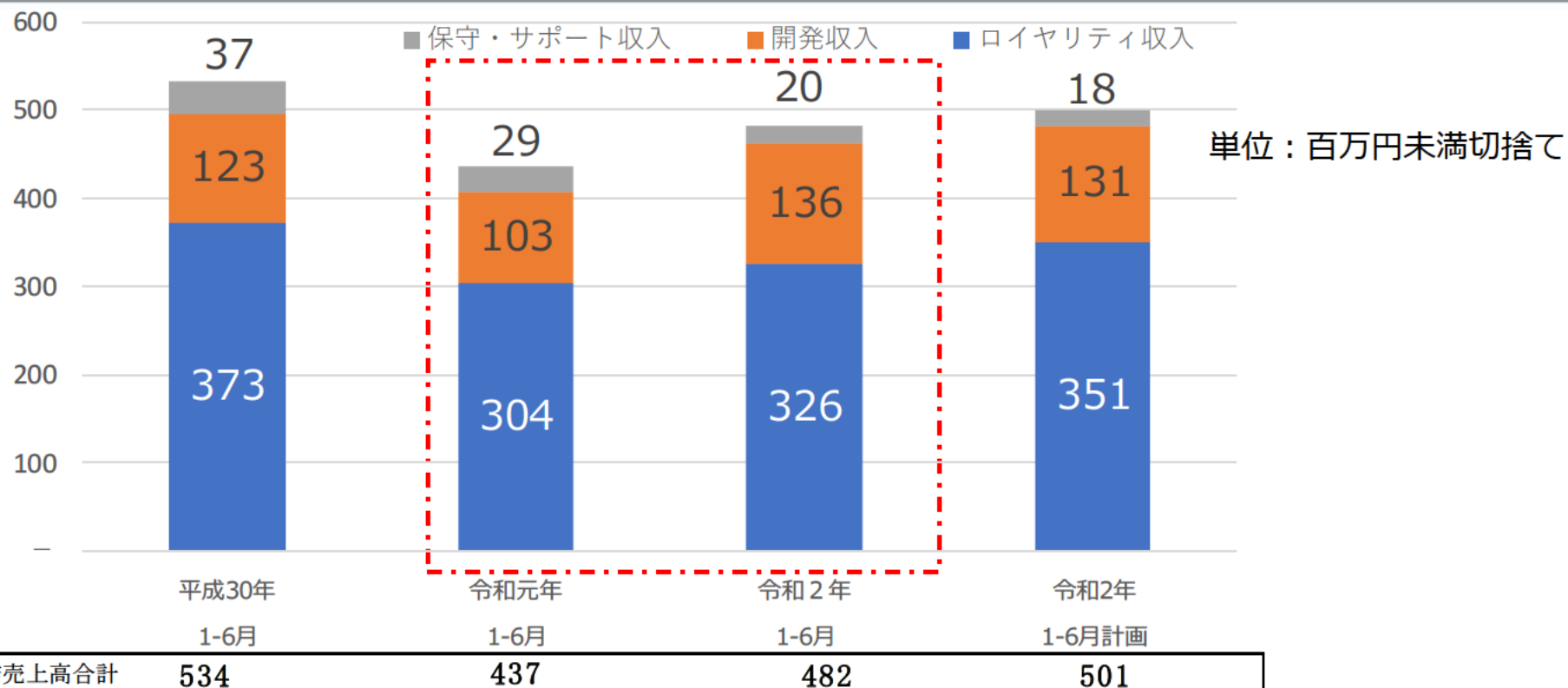
(資産)

- ・ 現預金は、四半期純利益24百万円を計上し、減価償却費・のれん等の資金流出が伴わない費用もあり、152百万円増加した。
- ・ 原材料は、前払いしたロイヤリティの払い出しによる減少等で38百万円減少した。

(純資産)

- ・ 四半期純利益24百万円を計上したことで、利益剰余金が24百万円増加した。
- ・ 株式報酬に伴う自己株式処分により、自己株式が18百万円減少した。

4. 形態別連結売上高推移



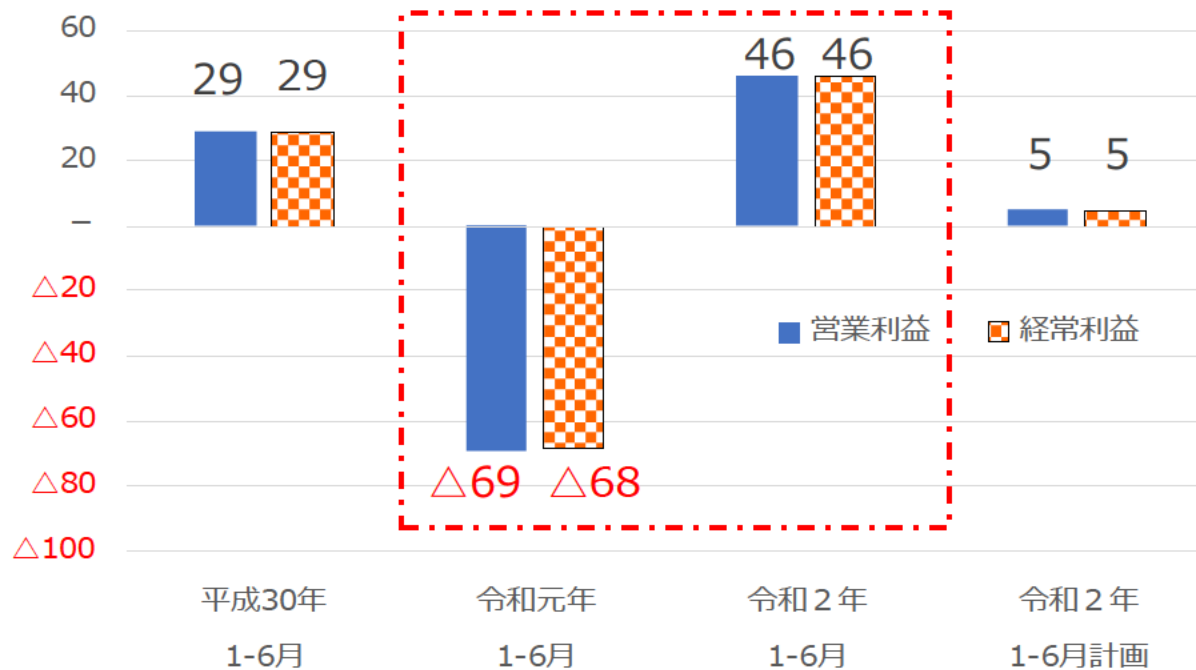
(ロイヤリティ収入)

計画していたロイヤリティ案件がなくなった影響もあり、計画値には届かなかったが、前期にロイヤリティ収入の底上げのために取り組んだ4K/8K向けの開発の成果が出て、前年同期比では21百万円の増収となった。

(開発収入)

開発時期の見直し等の影響があったが、概ね計画通りに納品でき、売上規模が上振れた案件もあり、全体として計画値を若干上回り、前年同期比で32百万円の増収となった。

5. 連結営業利益・連結経常利益推移



連結営業利益	29	△69	46	5
連結経常利益	29	△68	46	5

(営業利益・経常利益)

売上高の増収に加え、新型コロナウイルス感染拡大により、出張自粛などで発生経費が少なくなったことにより、営業利益、経常利益ともに計画を大きく上回った。

本資料は、株式会社sMedio（以下、「当社」といいます。）の決算情報の説明のために作成されたものであります。

本資料に記載されている計画や見通し、将来展望などは、本資料作成時点において入手可能な情報に基づき、当社が合理的と考えるものであります。が、これらには、様々なリスクや不確実性が内在しています。

様々なリスクや不確実性には、既知のものもあれば、未知のものもあり、当社が発表している計画や見通し、将来展望、将来の業績などが、実際の業績などと異なる結果となる可能性があり、当社として、それらの実現を保証するものではありません。